

# 中小企業連携促進基礎調査

## ベトナム国機能性野菜栽培・販売に関する調査

### 企業・サイト概要

- 提案企業：株式会社トーヨーエネルギーファーム
- 代表企業所在地：福島県相馬市
- サイト：ベトナム国ハノイ市及びバクニン省ティエンドウ地区



### ベトナム国の開発課題

- 農業セクターの近代化（農家の組織化、高付加価値作物による生産性向上、食の安全担保等）による振興が課題である。
- 河川や湖への工業排水・地下水のヒ素等、水質が汚染された環境で野菜が栽培されており、農業も合わせて、安全な野菜の供給が課題である。
- 2013年のベトナムの対内直接投資は全体で144.8億ドル(1,530件)であったが、農林水産分野への投資は0.72億ドル(13件)で、農業分野への、日本からの投資拡大が課題である。
- 東南アジアで唯一の亜熱帯デルタであり、雨季には南西モンスーンによる洪水、乾季には低温と干ばつと、気候変動に対して脆弱である。

### 中小企業の製品・技術

- トーヨーエネルギーファームが開発した機能性野菜「ブリリアントレタス」。高齢者や腎臓病患者向けのメディカル野菜（低カリウムレタス、減硝酸態レタス）と健康志向の方向けのサプリメント野菜（高亜鉛レタス、高鉄分レタス）の2つのシリーズがある。
- ①太陽光利用型植物工場建設、②水耕栽培農園運営管理、③機能性野菜栽培ノウハウ、④ハウス管理システム、⑤生産管理システム、⑥資材提供（種子、機器等）、⑦農園運営ノウハウのトータルソリューションによる、機能性野菜の栽培技術。

### 日本の中小企業の事業戦略

- ベトナムの中間層と富裕層は現在の1,200万人から2020年には3,300万人に増加すると見込まれている。食の安全と健康志向から、機能性野菜の需要拡大が期待できる。
- 日本を含む先進諸国の企業が進出していない分野であることから、トーヨーエネルギーファームは、スマートアグリ事業（植物工場、機能性野菜栽培・販売事業）の構築、運営にかかわる技術とノウハウをベトナムに展開して、他に先駆けて市場に参入する先行メリットで、市場で優位性を固める。

### 中小企業の事業展開を通じて期待される開発効果

- 太陽光利用型植物工場と機能性野菜栽培技術がベトナムに移転され、高付加価値の野菜が栽培されて、ベトナムの企業が参入したり、農家が組合を作って参入したりして、ベトナム農業の近代化に貢献する。
- 農薬を使用せず、浄化した水を使うことで、現地の野菜に含まれる残留亜硝酸態窒素が含まれず、安全な野菜を栽培してハノイ市民に供給が行われる。
- 短期的には太陽光利用型植物工場の投資を行い、中期的にはフランチャイズ制により事業展開を行い、機能性野菜という新たな市場を開拓する。これにより、国内外からの農業への投資が促される。
- 太陽光利用型植物工場の管理された環境で機能性野菜を栽培するため、通年、安定して栽培が行え、気候変動の影響を受けない。